

教育実習Ⅶ（小）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 教授 村上典章

1 はじめに

教育実習Ⅶは、次年度の小学校教員免許必修の教育実習（教育実習Ⅱ・Ⅲ）に先駆けて、小学校教育の実際にふれ教職への自覚を高めることを目的として実施する。その目標は、学校と教員の仕事、子ども、基本的な指導技術についての理解を深め、教育研究課題と自己を発見し、教職に就くことへの自覚や使命感を高めることである。この実習には、実習体験を通して自己の適性を判断する、多様な文章の添削指導により文章表現力を高める、学習会を通して教育研究の視点や協議のスキルを身につける、宿所での共同生活やグループワークを通して主体性、協同性を育て自己の課題に対する早期取り組みの契機とする等の点で意義がある。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学修 (学内)	4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義、目的、心構え等を再確認する。 ・3年生からの紹介を聞き、実習校を選択、決定する。 ・実習校毎に実習長を中心とする役割分担を行い、実習校、宿所等に関する情報収集、事前学修を行い、パンフレットを作成し、教育委員会、実習校、宿所へ送付する。 ・文章講座「自己紹介の書き方」、「目標の書き方」、「観察・記録のしかた」、「礼状の書き方」を参考に、添削指導を受けながら完成する。 ・「子どもとの関わり方について」、「特別支援教育について」等の講義を受け、理解を深める。
観察実習 5日間 (学外) *宿所へは 前日(日曜日)移動	6月第3週	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の内容は実習校により計画される。内容の例として、①校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、養護教諭講話、②全学年の授業観察、③スポーツテスト、環境整備作業(教室掲示、プール掃除)等の補助、④学級活動(レクリエーション)の計画、指導等が挙げられる。 ・宿所では、宿泊担当教員の添削指導を受けながら教育実習日誌等の記録をつけ、学修会で討議することで学んだことを客観化、共有化しながら理解を深める。また、生活面で分担された役割を果たす。
事後学修 (学内)	6月～7月 報告会は 7/20に実施	<ul style="list-style-type: none"> ・実習校の全教職員、教育委員会教育長、宿所管理人、その他必要に応じて礼状を作成、送付する。 ・各自の実習を振り返り、報告会レジュメと報告書を作成し、報告書は教育委員会、実習校へ送付する。 ・各実習校の実習長、副実習長による実行委員会を中心に報告会を実施する。報告会では、個人の成果と課題、グループ毎のテーマについて協議し、学んだこと等について発表する。

3 活動の概要

(1) 実習校並びに宿所

実習校	人数	宿所
山県郡北広島町立新庄小学校	10名	グリーンヒル大朝
山県郡北広島町立大朝小学校	10名	グリーンヒル大朝
山県郡北広島町立豊平小学校	18名	どんぐり荘
安芸高田市立船佐小学校	6名	エコミュージアム川根
安芸高田市立来原小学校	5名	エコミュージアム川根
安芸高田市立川根小学校	8名	エコミュージアム川根
呉市立下蒲刈小学校	16名	松寿苑

(2) 教育実習を通して学んだこと（学生の報告書より抜粋）

- ・正直最初は1週間という短い期間で何かを学び得ることができるのか、そもそも児童たちがそんなに簡単に心を開き実習生として私たちを迎えてくれるのか、半信半疑な部分もありました。しかし、毎日毎日が初めてだらけで、1日の終わりの日誌には毎回書ききれないほどの思いでいっぱいになります。今までは、先生とはこんな感じであろうというイメージしか描けなかったのですが、実際に教師の現場を目の当たりにすると違うことばかりでした。人が人を育てる教師という仕事は、日々の新しい発見と研修からなり、常に自分を磨き続けなければならないと感じました。また、児童たちの一生に一度しかない一瞬一瞬の学びに責任を持つことが重要であり、大変な職業だと思います。しかし、これほどまでにやりがいのある職業も他にないと感じました。改めて夢に向かって頑張ろうと感じさせてくれたのは、「子供たちの笑顔」です。貴重な体験をさせてくださった全ての方々に感謝の意味と恩を返す意味でも、今自分に出来ることはやるべきことを精一杯やるのみです。
- ・教師の仕事の中で、今まで私が不思議に思っていたのは教務部と保健部です。今回の実習の中でその二つを担当されている先生からお話を伺う機会があり、教務部は時間割を作り、保健指導部は生活面の指導やスポーツテストなどを担当していることを学びました。こういった仕事を分担していることで、学校をうまく運営することができていると知りました。
- ・この実習で、「先生は子どもの鏡」ということを実感しました。実習中、何度か机に肘をついてしまったり、姿勢が悪くなってしまったりしました。きちんとしようと思っていても、ふとした瞬間に気の緩みが身体に出てしまったのです。子どもは先生の姿をみて、そのように育ちます。子どもたちを教育していく立場の人間がきちんとしていないとだめだと痛感しました。

4 成果と課題

今年度、事後報告会を1日2コマ連続開催にしたことは、準備期間の確保と協議の深まりという点で有効であった。また、3年生が日常的にアシスタントの役割を果たしたことは、活動を円滑に進めていく上で有効であった。次年度は担当教員との連携をさらに深めていく。

課題としては、実習校から「真面目ではあるが、積極性がない。」という指摘を受けた点が挙げられる。教育現場の実態から学生の将来を見据えての苦言と受け止める。今後、大学生活において、この点を意識した指導を継続していきたい。